

令和6年度の実組内容の報告及び令和7年度の活動方針

No.	令和6年度の実組内容			令和7年度の活動方針
	主な課題	対応及び経過	成果及び結果	
1	【支援が必要な児童に関するハンドブックについて】 支援が必要となった場合に受けられる支援や困ったときに相談できる場所について周知する必要がある。	・令和4年度にこども部会を中心に関係機関協力により作成。 ・令和5年度に関係機関向けに冊子配布。市民向けに案内チラシ及びホームページ上にて発信。 ・令和5年度からこども部会にて意見徴収し、ブラッシュアップ。	・第3版(令和7年3月現在)でブラッシュアップし、ホームページへ掲載予定。	・引き続き、修正や追加などがあれば、こども部会からの意見徴収を中心にブラッシュアップしていく。
2	【各支援機関の役割・連携体制の整理について】 診断を受けた児童が、適切な支援(福祉)につながらないケースがある。 他機関で支援を受けている子の支援体制を検討する機関が明確になっておらず、連携した支援につながりにくい。	・各支援機関の役割と支援内容について明確化。 ・多角的な視点から見た福井市における障がい相談支援体制について整理。	・各支援機関の役割と支援内容が明確になり、多角的な視点から見た福井市における障がい相談支援体制について、関係機関向けの図として整理できた。 ・関係機関向けの図について、各分野での研修機会などを通じて、障がい福祉課として説明していくことができる。	・市民向けの図としてブラッシュアップし、ハンドブックへの掲載などができるようにしていく。

【医療から学ぶ発達障害児支援研修】

令和6年6月～令和7年1月に5回シリーズで開催したところ、医療・教育・保育・福祉などの関係機関から延べ376名の参加があった。

また、令和7年3月31日まで本市のホームページ上にて一部の講義動画や資料を掲載している。

- 第1回「今さら聞けない。発達障害の診断と医療」(6/13):59名(うち地域生活支援拠点研修参加者38名)
- 第2回「学習障害の診断と支援～学習障害の診断の根拠～」(9/6):43名
- 第3回「医療と教育と福祉の連携」(10/25):202名(うち市教委主催会議参加者180名)
- 第4回「投薬について」(11/6):38名
- 第5回「医療と福祉の連携でできたこと」(1/15):34名

⇒今後も医療・教育・福祉の連携した取組が必要であり、さらに母子保健やこども・子育て支援における取組と連携できるよう検討が必要。